

設問番号	I
解答又は 解答例	以下の点を基準に評価する。 ① 現場でおこなわれる実践研究の長所と短所が書かれているか ・長所の例：普段教育がおこなわれている場（教室等）で、普段と同じようなセッティングで研究をおこなうため、参加者が気負いなく参加し、普段通りの結果が出やすい（生態学的妥当性が高くなりやすい）／そのため、教育現場への実践的な示唆が得られやすい、など ・短所の例：剰余変数を厳密に統制することが難しく、参加者の個人差、研究がおこなわれる場の環境、使用する材料等の影響が結果に反映されやすい／現場の教員・学校長・保護者等との調整が必要となり、研究できることに制限が出る可能性がある、など ② 現場を離れた実験室研究の長所と短所が書かれているか ・長所の例：剰余変数を統制することができ、検討したい変数の効果をより明確に明らかにできる／学校・教員・教材等の現場による影響を少なくすることで、教育に重要な理解・記憶といった心的メカニズムに焦点を当てた研究をおこなうことができる、など ・短所の例：参加者が実験室で出した結果が、普段教育の場でおこなっていることと同じである保証がない（生態学的妥当性が低くなりやすい）／教育現場から離れた研究セッティングになりがちで、結果をそのまま教育現場に適用できるか疑問が残る、など ③ ①・②を、それぞれ適切で具体的な研究例に沿って説明しているか ・実践研究・実験室研究、それぞれに挙げている長所と短所を説明するのに適した研究例であるかどうか ・大まかな研究の設定を示すだけでなく、十分に具体的な研究例を設定しているか ④ 1つの具体的な研究を構想・計画することを超えて、その研究分野全体のより大きな研究ビジョンを持ち、論じることができているか ⑤ 全体を通しての文章構成力・論理性
出題の意図	博士後期課程の学生には、今後研究者として成長していくために、研究分野全体に対する広い視野と知識、研究を実施していくための技能、その研究分野の将来に貢献していくための関心・態度が必要である。 研究分野全体に対する広い視野と知識、研究実施技能を問うことを目的に、実践研究と実験室研究という2つの大きな研究方法についての長所・短所を、具体的な研究例の中で説明する問題を設定した。また、研究分野の将来に貢献するための関心、態度

	を問うことを目的に、分野全体の研究の望ましい形について自分の考えを論じる問題を設定した。
--	--

設問番号	Ⅱ（１）（２）
解答又は 解答例	以下の点を基準に評価する。 ① 選択した２つの理論について、主要な概念を正確に理解し、それぞれの理論に基づいて学習行動を適切に説明しているか ・自己決定理論では、基本的心理欲求（自律性・有能感・関係性）や動機づけの質などが適切に説明されているか ・期待×価値理論では、成功期待、課題価値、コストなどと学習行動との関係が適切に説明されているか ・原因帰属理論では、原因の所在、安定性、統制可能性などの観点から、成功・失敗の原因認知がその後の動機づけや学習行動に及ぼす影響が適切に説明されているか ・各理論について、教室場面に即した具体例を用いて説明しているか ② 選択した２つの理論の特徴を踏まえ、両理論がどのように補完し合うかを適切に論じているか ・各理論が特に説明しやすい側面や説明範囲を整理し、２つの理論を組み合わせることで学習動機づけや学習行動をどのようにより多面的に説明できるかを、根拠をもって論じているか ③ 選択した２つの理論に基づき、介入内容と仮説が一貫した実践介入研究として構想されているか ・介入内容が選択した理論の概念に基づいているか ・介入によってどのような心理的変化や学習行動の変化が生じると予測するのかが、仮説として明確に示されているか ④ 仮説を検証するための測定指標と手続きが適切に設定され、内的妥当性を高めるための工夫が示されているか ・理論上重要な心理指標、学習行動、学習成果等を適切に測定しようとしているか ・事前・事後測定、比較群の設定、介入手続きの標準化、介入忠実度の確認、評価者によるバイアスや交絡要因への対処など、研究目的に応じた妥当な工夫が示されているか ⑤ 実践者兼研究者として介入研究を行う際の倫理的・実践的な問題について適切に考慮し、研究計画全体を論理的に構成しているか ・児童や保護者への説明と同意、教育上の不利益の回避、成績評価と研究参加の切

	り分け、研究者の期待やバイアスへの対処などについて、研究内容に即した配慮がなされているか なお、具体的な介入内容や研究手続きについて特定の方法を唯一の正解とはせず、選択した理論との対応、研究目的との整合性、方法上の妥当性、根拠の明確さを踏まえて総合的に評価する。
出題の意図	博士後期課程の学生には、専門分野に関する知識・技能に加え、学術的課題への関心を持ち、研究能力をさらに高めていこうとする意欲・態度が必要である。 学習動機づけに関する理論についての専門的な知識と、それらを具体的な学習場面に適用し、複数の理論を比較・統合して考察する技能を問うことを目的に、2つの理論に基づいて学習行動を説明し、両理論がどのように補完し合うかを論じる問題を設定した。 また、学術的課題への関心と、理論に基づいて研究を構想するための知識・技能を問うことを目的に、小学生の学習動機づけを高める実践介入研究を構想する問題を設定した。あわせて、仮説、測定指標、研究手続き、内的妥当性、倫理的・実践的な配慮について検討させることにより、より適切な研究のあり方を主体的に考えようとする意欲・態度をみることを意図した。